

平成 22 年度大学図書館職員短期研修

京都会場：10 月 8 日（金）

東京会場：11 月 12 日（金）

## 大学図書館職員のスキルアップ法

奈良教育大学学術情報研究センター図書館

赤澤 久弥

### 0. はじめに

現在、大学図書館は変化の中にある。これは、本研修の講義で取り上げられているように、少子化、グローバル化、ネットワークの普及など社会の変化に起因する大学自体の変化によるものであり、それは、大学図書館の機能と直結する学術情報流通や大学教育のあり方の変化にもつながっている。そしてそうした状況は、大学図書館職員に対しても、目録技術といった伝統的なスキルのあり方の変容を迫るとともに、情報リテラシー教育などをめぐる新たなスキルを求めてきている。

しかし、大学図書館はこれまでも「機械化」を始めとする変化とともにあったし、教育との連携なども従来の課題と認識されていたものである。今直面している変化がこれまでと異なるのは、ネットワーク化による他業種との融合、図書館機能のアウトソース化など、機能や組織の面において長らく大学図書館自身のフィールドだったところに、様々なプレイヤーが入り込んでいることではないだろうか。そしてそのことは専門職と自らを定義づけてきた大学図書館職員像に「ゆらぎ」をもたらしている。

以上の現状認識の下、大学図書館職員のスキルアップ法について考えるための論点をあげる。

### 1. 大学図書館職員のスキルとはなんだろうか

昨今、図書館員像のゆらぎを背景に図書館員の「コア・コンピタンス」を定義しようとする動きがある。これは、長らく日本の大学図書館がひとつのモデルとしてきたアメリカにおいても同様である。ここであげられる知識や技術には、従来図書館が提供してきた諸機能についてのものや主題についてのもの、また学術情報流通など図書館を巡る環境についてのものなどがある。さらにそれらにとどまらず、語学能力はもとより、ICT に関するものなどに加えて、コミュニケーション能力や企画力、マネジメント能力など、従来図書館職員のスキルとしてはあまり主張されてこなかったものまでもが含まれるようになってきている。こうした定義の類を参照することは、現在大学図書館職員に求められるスキルの全体像を概観するにあたって有用である。

## 2. 必要なスキルを身につけるにはどのような方法があるだろうか

大学図書館職員は、図書館員であるとともに、大学職員である。よって、政策文書等により大学や図書館を巡る状況を概観しておくこと、自らの属する大学の現状を知っておくことが求められる。また、大学職員としての専門性が問われているのは図書館職員に限られたことではない。同じ大学に働く者として、他の職種の理解と連携も必要であろう。さらに、教育と研究という大学の存在理由に密接に関わる職務にあたる図書館職員としては、教員との対話等を通して、学問への親近感を忘れないようにしたい。

その上で、大学図書館職員としてのスキルを身につけるにはどうしたらいいだろうか。まず、図書館やその周辺領域に関係する各種情報を収集するにあたっては、関連組織や団体等が発行する雑誌はもとより、それらが発信する web サイトやメーリングリスト等から、最新の情報を得ることができる。また、関心分野の重なる個人のブログやソーシャルブックマークを定期的にチェックすることも有効である。なお、あふれる情報におぼれないためには、定期的にチェックする媒体を決めておくことや RSS などを利用して効率的に情報を収集する必要もあるだろう。

実際のスキルアップにおいては、業務を経験しながらの OJT の力は大きい。よって、人事異動によって広く各実務の経験を得ることは、それが組織と本人において有効に機能しているという前提において有効であろう。また、各種研修への参加もあげられる。これには新しい知識を得ることに加えて、参加者間での人脈形成という意義も小さくない。また、海外事情についてはネットなどから多くの情報が得られる現在であるが、実際に現地の空気を感知直接話すことで得られるものは大きい。機会があるなら、海外研修への参加にも積極的でありたい。さらに、職務をしながら社会人大学院等で学ぶ大学図書館職員もいる。大学院への進学には、関心領域についてより深く知見を得られることや研究手法のトレーニングを受けられること、また人脈形成といった意義があるだろう。なお図書館情報学に限らずとも、問題意識に応じて他分野を選択することも考えられる。

しかし、OJT が機能しない職場や研修に参加できない職場はあるだろうし、また誰もが大学院に進学できる環境にあるわけでもない。もっともそのような状況の如何を問わず、スキルアップにおいては、自助努力の要素は不可欠である。そうしたとき、各種の資格試験等をモチベーションにしたスキルアップも一法である。さらに、専門職団体や学会、勉強会などへ自主的に参加することの意義は大きい。またそこでは一参加者に留まることなく、発表をしたり運営をしたりする側に回ってこそ、より有効なスキルアップや人脈形成などが可能となる。

## 3. スキルアップをしていくにあたっての課題とはなんだろうか

大学図書館職員は一人で働く職人ではなく、組織や人のつながりの中で働く組織人である。よって、スキルアップした成果は、組織の中で活かしてこそのものである。しかしそ

のことは、その組織の中で如何に自らのスキルを發揮するのか、よりよく働くのかという課題の存在をも意味する。そもそも、自らがスキルアップするための環境を得るには、職場の理解は欠かせないだろう。また、身につけたスキルをもって新しい取り組みを実現しようとしたとき、教員や上司の反対を受けたり、同僚や部下がついてこなかったりする場合には、どうしたらいいだろうか。そしてそのような状況に対したとき、さらには意に沿わない仕事をせざるを得ないとき、スキルアップのモチベーションはどうしたら維持できるだろうか。

そうしたことを考えるとき、言わずもがなではあるが、大学図書館職員はまず組織において正当に評価されうる一社会人でなければならない。その上で、先述のコミュニケーション能力、企画力、マネジメント能力といったスキルをもって、課題に対処することになるだろう。そしてこれらは、大学図書館職員が外部プレイヤーやステークホルダーとのより密接な関わりが求められている現状において、よりよい図書館を実現する上で不可欠のスキルでもある。もちろん、そうした基礎能力とともに、大学図書館職員としてのみずからの「強み」となるスキルを磨いておくことも、同じく重要である。また、自らの力のみ頼るだけではなく、ロールモデルやメンターとなる人を見つけることも、よりよく仕事をする上で有効なことになる。

さて、図書館の仕事とは本来的に「つながる」ことである。それは利用者や情報との間の関係性においてだけではなく、図書館や図書館職員同士においても同様である。そして、スキルアップをしていく上ではもとより、仕事の遂行においても、人脈の力は大きい。それは先に述べた様々な機会で構築していくものであるし、昨今は、Twitterなどを介したネットワーク上のつながりをリアルなつながりとすることもできる。また、森羅万象の知識を扱う図書館の仕事は、広く世界につながっている。閉じた図書館の世界だけでスキルアップや自己実現を図る必要はない。時には休んだり、目線を変えたりすることで、幅をもって仕事を捉えることも、また必要であろう。

#### <<参考文献等>>

- ・ 鈴木正紀. 大学図書館職員のスキルアップ法. 平成 21 年度大学図書館職員短期研修 配布資料. 2009. <http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/librarian/h21/index.html> (参照: 2010-9-21)
- ・ LIPER (情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究). 2006. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/liper/index.html> (参照: 2010-9-21)
- ・ 国立大学図書館協会人材委員会. 大学図書館が求める人材像について:大学図書館職員のコンピテンシー (検討資料). 2007. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/projects/hr/jinzaizo1903.pdf> (参照: 2010-9-21)
- ・ “ALA, 議論の末に「ライブラリアンのコア・コンピタンス」を定義”. カレントアウェアネス-E, 2009, No.145. <http://current.ndl.go.jp/e896> (参照: 2010-9-21)
- ・ 東京大学業務改善プロジェクト推進本部編. 大学職員キャリアガイド. 2007

- 筑波大学. 今後の「大学像」の在り方に関する調査研究（図書館）報告書:教育と情報の基盤としての図書館. 2007. <http://www.kc.tsukuba.ac.jp/div-comm/pdf/future-library.pdf> (参照 : 2010-9-21)
- 鈴木正紀. “研究文献レビュー:大学図書館員の継続教育”. カレントアウェアネス, 2008, No.288. <http://current.ndl.go.jp/ca1599> (参照 : 2010-9-21)
- 特集 : 人材育成. 情報の科学と技術, 2003, 53(3)
- 特集 : Infopro ならこれを読んでおこう. 情報の科学と技術, 2006, 56(8)
- 特集 : 価値観の交差点. 情報の科学と技術, 2006, 56(9)
- 特集 : 図書館員に求められる資質とキャリア形成. 情報の科学と技術, 2009, 59(2)
- 特集 : 医学図書館員のためのデジタル・パートナー. 医学図書館, 2009, 56(3)
- 特集 : 大学図書館員の海外研修見聞録. 大学の図書館, 2008, 27(11)
- Lifo. 勉強会のすゝめ. <http://www.lifo-club.org/> (参照 : 2010-9-21)